

## 平成23年度第1回労働問題審議会 議事録

日時：平成23年6月20日（月）10時15分～11時45分

会場：宝塚市役所 3階特別会議室

出席委員：小西委員・大崎委員・友金委員・松本委員・西方委員・松山委員  
田中委員・村上委員・大野委員・川下委員・土居委員・川中委員

事務局：樋之内産業文化部長・山本産業振興室長（商工勤労課長）

山本（奈）係長・千原・早川

オブザーバー：庁内関係課職員

### 1. 辞令交付

「事業主を代表する者の構成区分」の大島委員の後任に、松本富子委員（宝塚商工会議所）が、「関係行政機関の職員の構成区分」の酒井委員の後任に川下幸弘委員（西宮労働基準監督署）、菊森委員の後任に川中正登委員（兵庫県阪神北県民局）がそれぞれ就任。中川市長（挨拶の後に退席）から委嘱状を手渡した。

### 2. 署名委員の指名

会長から議事録の署名委員に、田中委員と村上委員が指名された。

### 3. 傍聴を許可

傍聴希望者が1名（別添資料2のとおり）あり、許可され傍聴した。

### 4. 議事（結果）

#### 議題（1）平成23年度宝塚市労働施策に係る行動計画について

92の労働施策に関して、平成22年度の実施状況を踏まえ、24年度末を達成目標とする23年度事業計画について、重点12事業を中心に説明する。審議会からは行動計画(別添資料3)を着実に推進するとともに、事業評価の指標・値について、数値評価のアウトプットから質的評価のアウトカムを中心に見直すよう求められた。この事業評価の見直しについては、次回審議会のテーマになる見通しである。

各委員からの主な意見は、次ページ以降の「委員の主な意見」のとおり。

#### 議題（2）ワークサポート宝塚の運営状況について

西宮公共職業安定所長でもある土居委員から、現下の雇用状況について、別添資料4に基づいて説明。続いて、事務局から「ワークサポート宝塚」の運営状況（別添資料4、及び行動計画）について説明を行った。

各委員からの質問、意見等の発言はなかった。

議題（３）その他について

- ① 23年度の新規事業である「名匠セミナーの実施について」（別添資料5）を事務局から説明を行った。質問、意見等はなかった。
- ② 次回審議会について、審議会の提案が新年度事業の予算化に間に合うよう、本年10月末頃を目処に開催することを確認する。その際に、24年度事業に生かせるようなものを考え、各事業を、どう評価すればよいかを提案できれば、審議会としてより深く行動計画にコミットできる、との小西会長の言葉があった。  
この評価は、単に数多ければよいというのではなく、住民ニーズにどれだけ応えることができたかのアウトカム・質的な達成度で評価すべきものである。

.....

《委員の主な意見》

議題（１）平成23年度宝塚市労働施策に係る行動計画について

[会長]

行動計画の「指標・値」（24年度末の達成目標値）は、当面の需要は押さえているが、数が多いからよいというものではない。長期的には減少する性質のもの。数の多さではなく、ニーズにどれだけ応えて満足させているかが重要。「指標・値」の設定に工夫がいる。

(事務局)

確かに、数値の増加ではなく質的向上が大切。設定を精査していく必要がある。

[委員]

例えば、保育関連事業では、親御さんの働く環境をよくすることが重点で、ただ単に、数値が多くなることが重要ではない。現在の「指標・値」では、働く環境をよくすることに各事業がどれだけサポートできているかがわからない。違った評価の仕方があるのではないか。

(事務局)

施策体系全体の中で取り組んでいる。それぞれの個別事業の目標値を掲げ、市全体で取り組んでいる。確かに、個別事業がどれだけ就労支援になっているかについては別の視点での検証が必要である。

[会長]

ひょうご仕事と生活センターが、冊子も作成し、女性の働きやすい取り組みやワークバランスについての研究をしている。このセンターとの関係はどうか。

[委員]

ネットワークの中で行っていると思うが、センターと各市との具体的な関係はわからない。

(事務局)

センターでは、講師の派遣を行っており、以前、メンタルヘルスのことで講師を呼ぶ計画もあったが、講師と日程が合わず来ていただけなかった。

[会長]

センターを活用してください。

[委員]

市民の立場で、プラザ・コム「こむの事業所」の活動に本年5月から関わっている。障害者14名に関りをもっているが、生活保護受給者のことは念頭になかった。正規職だけでなくパート職も対象にしているが、今後は、生活保護の人のことも頭に入れて取り組む必要があるかと思う。

(生活援護課長)

生活保護受給者の就労については、2名の就労支援員がおり、無料職業紹介所も開設し、また、ハローワークとも連携し直接、事業所に出向いて就労支援に取り組んでいる。長期離職者、引きこもり、親の死別による生活困窮者などには職業訓練や模擬面接なども行って支援している。アルバイトの仕事も施策に組み入れて取り組んでいる。

[委員]

「生活保護受給者等就労支援」事業の効果額の意味は何か。

(生活援護課長)

生活保護費をどれだけ削減できたかで、その効果を示している。

[委員]

労働施策のモラルが求められている。議題になっている行動計画は、労働施策が網羅されていて、行政が各事業にどれだけ取り組み、効果がどのように出ているかを一覧にしたものだ。そこには経営的観点がなく、受益と負担のバランス面が出ていない。

現在の住民ニーズに対して、行政が厳しい環境下で人、物、金をどこまで投入することが許されるのか。やはり、全てを行政がするのではなく民間に任せられるものもあるはずだ。ダイキン工業の取り組み例が全国に広まればよいと思うが、民間で行えるものをどう生み出していくかなどの格調の高いものを導き出していくことが、この審議会の本来の仕事だと思う。

答申に基づいて、健全な運営をするにはどうしたらよいのかは、この労働問題審議会に託されており、それに貢献していくのがわれわれ委員の仕事である。価値が創出されていない、宝塚らしさが達成されているかわからない状況下で、どういう施策を生み出し導いていくかがわれわれの仕事である。全てを福祉的にするのではいけない。受益と負担のバランスを考慮し、民間の活用も必要になる。行政レベルを上げるのに審議会に託された課題は何なのか。聞くだけではだめだ。

障害者や引きこもりの人などが、ハローワークを通じて何度もチャレンジするが採用に至らないなどの問題はどうすればよいか、なぜか議論されていない。給料をもらって事業所のトレーニングを受けそこに就職できるという、そのような事業所があることに驚かされた。国・県において積極的に取り組まれている。就職率を高めるのにどのようなことができるのかを提案するのもわれわれ委員の仕事だ。現状はニーズの多くある中、予算等の制約もあって行動計画にあるようなことしかできていない。

(事務局)

その通りだと思う。行動計画の特に重点事業は、行政につきつけられている課題に、どう対応しているかについて対処療法的になっている。ワーキングプアという新たな問題も出てきている状況で、もっと広い観点に立って考えていかなければならないと思う。

緊急雇用でも民間の動きが活発で、小林地区に伊丹ワーカーズコープがやってくるが、そこでは1年間の職業訓練をしている。勤めたが長く続かないという人が来て、起業するまでの活動を行うとのこと。民間しかできない取り組みである。

[委員]

移転原理というものがあり、行政が全てをやるのではなく、民間にできるものは移転する。課題整理をし、行政は大変だというだけでは、審議会の使命を果たせない。

[会長]

村上委員は、生活保護の人の就労のことで話をしたいと事務局に連絡しているようだが。

[委員]

生活保護の問題。世間の冷たい目がある中で、ボランティア活動等をするなど、勤労可能な生活保護の人の雇用につながるような仕組みができないかと思ったので連絡したものだ。

[会長]

審議会は年に2回開催している。今、開催している1回目では、前年度実績を踏まえて、長いスパンの計画について、2回目では、このような形で事業を組んではどうかと提案する内容で審議している。労働施策に関して24年度予算編成に向けて現課が評価をしているが、アウトプットではなく、アウトカムで評価しなければならない。効果とアウトカムがつかめるものだ。

次年度は人数などの数値だけでなく、どれだけ効果があったのか、アウトカムで達成度がわかる指標が必要だ。23年度は現在提出されているものだが、24年度はどういう形にすればよいのか。23年度は行動計画に基づいて着実に進め、24年度は数値があるだけでなく、ニーズをどれだけ達成したかのわかる指標・値を掲げてほしい。

議題(2) ワークサポート宝塚の運営状況について

委員からの発言はなかった。

議題(3) その他について

「名匠セミナーの実施について」の説明に対して委員からの発言はなかった。

審議会の今後の審議会の運営についての小西会長コメント

今日は12事業について、インデックス・指標に関して意見が出た。限られた人、金等を使って行う事業をどう評価すればよいのかを、審議会から提案できれば、より深く行動計画にコミッ

トできるのではないか。23年度に掲げられた92事業を着実に推進して、労働環境にこんな効果がでたと、次の機会（行動計画）に反映できればよいのではないかと考えている。次回の審議会は、次年度の予算化に間に合うように10月末頃に開催したい。

以上